

〇〇〇〇特別支援学級 〇〇科 学習指導案

「自閉症・情緒障害」等の公簿にある学級名

実施期間 令和〇年〇～〇月
指導者 〇〇 〇〇

1 単元（題材）構想案

単元名（題材名）を書く。

単元題材終了時の
児童生徒の姿

- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画の目標を意識して、単元の学習のゴールの場面や実生活で学習を生かそうとする姿を想定する。
- ・文末は「～し（ようと）している。」とする。

	〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	「学びに向かう力、人間性等」
単元（題材）の目標	①	① ②	①
目標に近づけるための 3つのポイント× 子どもが主体のICT	【めあて】	【振り返り】	【対話】
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態が、単元の目標に向かうための手立てとして「熊本市の目指す授業づくり3つのポイント」やICT機器の活用について書く。 ・目的（何のために）と手立て（どのように）を明確にする。 例）……できるようにするために、……する。 ……することで、……できるようにする。 	

児童生徒の実態（下記2参照）

単元（題材）の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	① ②	①
	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項を用いて、教師と子どもが共有できるよう、具体的にわかりやすく示す。 ・文末は、各教科等によって示し方を確認する。 	

指導と評価の計画（〇時間取り扱い 本時〇/〇）

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
単元を通して、主体的に学習を取り組める 中心的な学習課題	1	○		【主】①
	2	○ ○		【思】②
	3	○		

- ・評価する内容と方法等については、3観点：「知識・技能」→【知】、「思考・判断・表現」→【思】、主体的に学習に取り組む態度→【主】を該当する観点に分かるように文頭に入れる。
- ・「単元（題材）の評価規準」の番号と対応させる。
- ・評価する時期や場面を精選し、身に付けた力が見えるような方法を工夫する。

2 児童生徒の実態について

・児童生徒数によって,行数は調整する。

名前(仮名) 学年	単元(題材)における実態	自立活動と関連した手立て
熊本 太郎 さん 3年	<p>・単元における実態は,今できていることに着目し,文末を肯定的な表現にする。 例) ……することはまだ難しいが, ○○があると, ……することができる。</p>	<p>・見通しをもって落ち着いて学習に取り組めるよう,スケジュール表を活用し,毎回の授業開始時に活動内容を伝える。 【心-(2)】</p>

実態

- ・3つの柱:「知識及び技能」→【知】
「思考力,判断力,表現力等」→【思】
「学びに向かう力,人間性等」→【学】を,該当する柱が分かるように文末に入れる。
- ・3つの柱の中から本単元に関する実態を記述する。(一部または全部)。

手立て

- ・実態を受けて,目標を達成するために行う手立てについて具体的に記述する。
- ・「各々の自立活動の目標」や「手立てがどのように自立活動と関連しているか」を意識して記述する。
- ・自立活動6区分の頭文字と27項目の項目番号を文末に記入する。例:【身-(3)】

(書式例)

3 本時の授業計画

(1) 本時の目標

点線以下は,訪問日の2日前までに完成させて提出する。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT機器等
導入	1		○	○	
展開	2	<p>学習者の視点で学習活動を書く ○:本時のめあてをつかむ ×:ゲームをしよう</p>	○	○	
	4		○	◎	
終末	5		○		

・「学習活動」に対する支援を具体的に書く。
「○○できるように○○しておく」
「○○を示すことで○○の理解を補う。」等

・「◎評価」には,の観点が分かるように,文末に【思】等を入れる。

・本時の振り返りについて「予想される子どもの反応」を書く。